

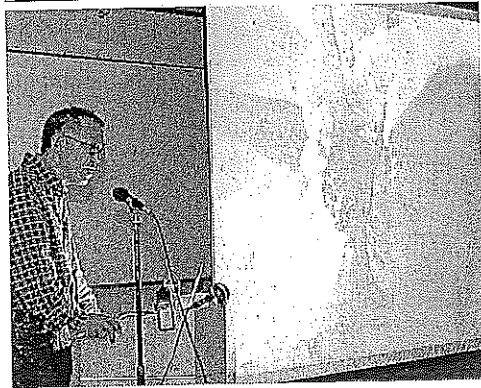
# 長崎

WIDE

## 「継続した支援を」

### 長崎大でハイチ地震シンポ 現地活動の2人 現状を報告

大地震で被災したハイチの支援を考えるシンポジウムが27日、長崎大であり、現地で支援活動を続けた同大熱帯医学研究所の山本太郎教授(45)と写真家と、非営利活動(NPO)法人「箱崎自由学舎ESPERANZA」(福岡市)の小田哲也代



表(49)が現状を報告した。約80人が聴講した。西氏が参加した日本政府の緊急援助チームは、地震発生5日後の1月18日、首都ポルトープランスの西約40キロのレオガン市で救急医療活動に従事し、500人以上を治療した。

小田氏は「40度を超える猛暑の中で疲弊したが、被災者が頑張っているから頑張れた」と振り返った。

山本教授は研究のため03年から1年間ハイチで暮らしたことがあり「ここで行かなければ医師としての存在価値はない」と思い立って参加した。現地で感染症が流行し、患者1人ずつの治療に時間を要するなど苦戦したことを写真を交えて紹介。「生きる」といつかについて考えるきっかけをもらった」と話した。

返った。「ハイチのニュースは少なくなっているが、いまだに水も食料も不足していることを心に留めてほしい」と、継続した支援を呼び掛けた。

リアセンター  
吉住中央  
佐藤  
橋本

845-4590  
823-7178  
862-8504  
863-7179